

三浦市立初声小学校

研究テーマ：自ら学び 未来を創る初声っ子
～自分の想いをもち、伝え合う子の育成～

1. 実践の目的

初声小学校の学校教育目標は「自ら学び未来を創る初声っ子」である。この目標は、2018年に、子どもたちの実態と課題、目指す子ども像を全職員で話し合い、定めたもので、毎年見直しをしている。本校の子どもは、素直で優しく、前向きな子が多い反面、自主性や積極性に欠け、「自分で考え、話し合い、発表する力」が弱いことが課題として挙げられた。そこで、重点を「自分の想いをもち、伝え合う子の育成」とし、校内研究でもこのような子どもを育てるために推し進めていくこととした。

2. 実践の内容

自ら学ぶ主体性や自分で考え発信する力をつけるためには、着けるべき力を確実につけ、自分の考えをもち、それを発信する力を育てていかななくてはいけない。そのため、以下の3点を今年度の研究の柱とした。

- ① 年間指導計画の作成
- ② 授業改善
- ③ ICT機器の活用

① 年間指導計画の作成

子どもの実態に即し、着けるべき力を明確にして、確実に身に着けさせるためには、授業者が個々に授業を行っていくのではなく、学校がチームとなって、6年間、更には小中9年間を見通した指導を行っていく必

要がある。そこで、講師を招聘し、年間指導計画の重要性を学び、作り方から見直し、学年ごとに作成し、すり合わせを行った。

② 授業改善

子どもたちの実態に合わせて、手立てを考えていく必要があると考え、学年ごとにテーマを決めて単元づくりを行った。まず、指導要領を読み込むところから始め、ねらいや内容に合わせて手立てを考えていく。また、読解中心や言語活動を目的とした授業からの脱却、内容理解の授業から資質・能力の育成を目指した授業への転換、問いを生む学習課題の設定、学びのプランの活用などの視点をもって授業改善を図っていった。

③ ICT機器の活用

昨年度より、GIGAスクール構想を受け、一人1台タブレットが配備された。うまく活用することで、分かりやすい授業や学習の効率化、個別学習や協働学習などの促進が期待できるが、各教員の裁量に委ねられ、活用に差があった。そこで、効果的な活用について、ミニ研修会の中で勉強会を行ったり、EdTech事業者を講師として、タブレットの活用法やプログラミングに関わる研修を、教科書会社の協力を得てデジタル教科書の研修を行ったりすることで、教師の機器活用への理解を深めた。また、ICT機器を活用することにより、様々な表現の手立

てとすることで、重点である「自分の想いを
持ち、伝え合う子の育成」につながると考え
た。

3. 実践の成果

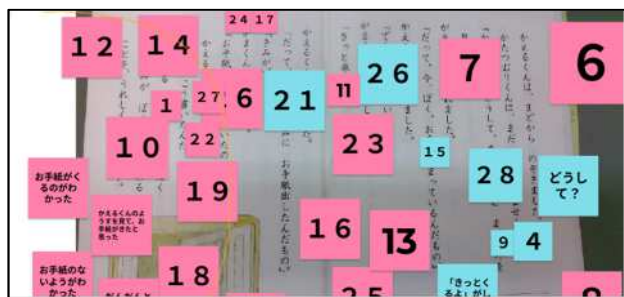
① 年間指導計画の作成

年間指導計画を作成することによって、
教科書ありき、指導書ありきの単元づくり
から、目標を焦点化し、ねらいを明確にした
単元づくりにつなげることができた。

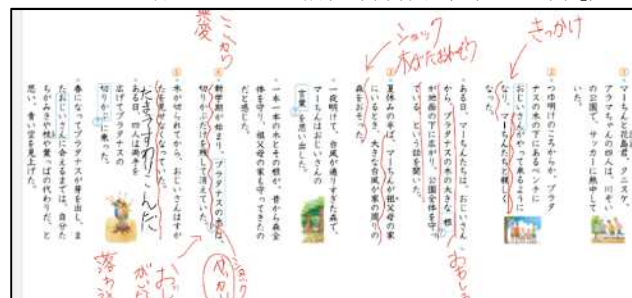
また、学びのプランと連動した年間指導計
画システムを作成した。次年度活用する中
で、懸念された授業者の負担軽減も図って
いきたい。

② 授業改善

各学年が、子どもたちの実態に即し、様々
な手立てを用いて、単元づくりを行った。そ
の中で、「場面読みからの脱却」「ICT 機器を
活用した思考の視覚化」など、テーマをも
って取り組むことができた。子どもたちの理
解が深まり、自分の考えと友達の考えを比
較しながら対話的な深い学びにつなげるこ
とができた。



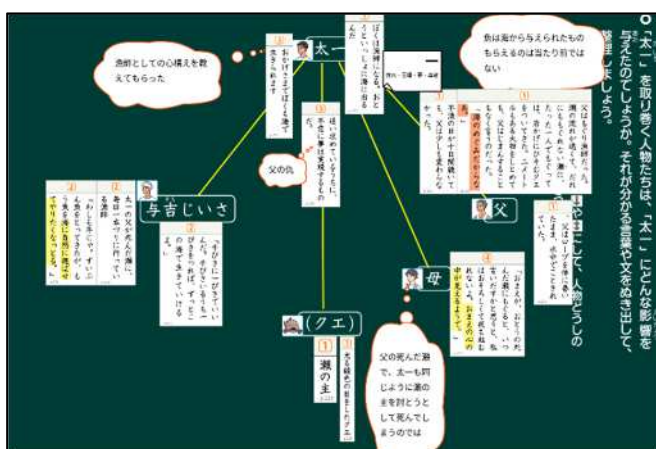
Jamboard の付箋機能を使い、気持ちが行動に表れている部分を探して色分けをしていく※数字は出席番号 (2年生「お手紙」)



デジタル教科書への書き込み (4年生「プラタナスの木」)

③ ICT 機器の活用

jam board やスプレッドシートなどの共
有機能を活用することで協働学習の中で考
えを深めることができた。また、デジタル教
科書のマイ黒板機能を使って自分の考えを
整理したり、視覚的に理解を深めたりする
ことができた。しかし、ICT 機器ありきにな
ってしまいがちなので、「目的」ではなく、
あくまで「手段」であることを確認した。た
だ、これからの授業の DX 化を考えると、継
続して活用法を学んでいく必要性を感じた。



デジタル教科書のマイ黒板機能で人物の相関関係を整理 (6年生「海の命」)

4. 今後の展開

年間指導計画やねらいを焦点化していく
中で、より系統だった指導の必要性を感じ
た。そこで、来年度は、国語の物語文に絞り、
より系統性を意識した研究を行っていき
たい。

また、今年度の研究を通して、5年目以内、
1校目の職員から「もっと勉強したい」とい
う声が上がった。そこで、次年度は、それ
に答え、公開授業研究会の開催を計画して
いる。研究会を開催することで、教師の授
業力向上を図るとともに、自分たちの目
指す研究をより形あるものにし、学校づく
り、学校教育目標の実現を目指して尽力
していきたい。